

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人 七久会		
事業所名	グループホーム おこんご	ユニット名	
所在地	長崎県諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成26年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年10月7日	評価確定日	平成25年11月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺める事ができる場所にあり、医院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急時の対応にご家族様にも安心して頂いております。又医院受診時に尋ねて来られる方もあり、コミュニケーションの場となっております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームおこんご”は職員の離職も少なく、馴染みの職員と穏やかな生活が続けられている。ご利用者お一人ひとりに生きてこられた人生があり、色々な経験や思いがある事を全職員が理解し、共に寄り添う声かけや対応を心がけている。日々の生活では食器拭きやお盆拭き、洗濯たたみ等をお願いし、職員から感謝の言葉を伝えており、入院されている方に皆さんで折り鶴を折る姿も日常に見られている。前回の外部評価以降、「生き生きとした暮らし」を目指し、今年もプランターに野菜やイチゴを植え、水やりや収穫を手伝って頂いた。日向ぼっこを兼ねてイチゴの成長を見る機会も増え、収穫時は皆さんで美味しく食べる事ができた。管理者は看護師でもあり、24時間体制で併設の医院と連携を図り、“できることはして欲しい”という思いでリハビリにも力を入れ、医院のリハビリ室で運動を続けている方も多い。“安らかな笑顔”が増えるように職員同士のアイデアも増えており、今後も更に、馴染みの関係が“馴れ合い”にならないよう、自尊心・羞恥心への配慮が“業務優先”にならないよう、職員全員で振り返り続けていく予定である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながらご利用者と関わるよう職員間で意識づけしている。	理念に“この町のつながりを持ちながら”という内容が盛り込まれ、地域のふるさと祭り等に行き、顔見知りの方から声をかけて頂いている。地域交流の機会も増え、職員も嬉しく思っている。日常生活でも“楽しく”という事を大切に、編み物を楽しまれたり、お花の水やり等もして頂いている。日々、笑が増えるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接のグループホームの交流や併設の病院を受診された方の面会。また入浴場所が併設の病院の患者様と一緒にある為交流がある。	地域のふるさと祭りや小長井の赤米見学、花見等にも参加している。敬老会は同グループのケアハウスと合同で行われ、高校生等のボランティアの方も躊躇って下さった。小長井小学校の訪問もあり、学園(福祉課)の方も来て下さり、ミニ鯉のぼりを作り、プレゼントして下さった。隣のホームに来られる文化協会の方との交流も楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症研修等の参加をし関わりを持ち、実習生も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、カンファレンスにて全スタッフに報告して、サービスの向上に活かしている。	家族・自治会長・支所の職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。ご利用者も参加し、交流する機会が作られている。活動報告やご利用者の状況を伝えており、「おがたまの花の木がとても綺麗ですよ」等の地域情報も教えて頂いている。今後も、民生委員の方にも参加の声かけをしていく予定にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議に出席して頂くことにより顔を合わせる機会も多く、グループホームの実情を伝えながら協力体制を取って頂くようにしている。	運営推進会議や各種手続きの時、研修時等にホームの状況をお伝えしている。ケアマネが市の窓口を訪れる事も多く、相談への助言も頂いている。支所の方から小長井特産の赤米の見物場所などを教えて頂き、行き道まで丁寧に教えて下さった。本所からも感染症情報を頂き、他のホームの情報も教えて頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険性がある場合のみを原則として、基本的に拘束しないように取り組んでいる。	転落の可能性がある方は観察を行い、転落予防のための話し合いを続けている。職員同士のカンファレンスで、職員の言動に関する確認も行われ、意見交換が行われている。穏やかに過ごされている方も多いが、「痛みに対する思い」も受容し、主治医にも協力を頂きながら、関わり方の話し合いが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常の金銭管理等を自分で判断が難しく、家族の支援が受けられない利用者の方が利用されており、支援員の方が定期的に面接に来られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設サービス計画書の作成時、利用者様や家族様に意見や意向を尋ねている。また面会時や日常の中で気軽に声をかけてもらっている。意見箱も設置している。	日々の生活の中で、ご利用者のお好きな事や希望などを確認している。面会時にお話を聞き、年間計画や運営推進会議の議事録等も家族に渡し、意見を伺っている。病気への不安や退居の心配等も話して頂き、医師と職員も一緒に今後の生活の話し合いを続けている。“お便り”の再開も検討予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度カンファレンスを開催しており、必要性がある意見に対しては案を作成して、代表者に提案し活動に繋げている。	職員間で意見交換し、アイデアや意見を出し合っており、より良い方法に関する意見は増えている。カンファレンスを欠席される職員からは事前に意見を伝えて頂き、管理者が会議で伝達している。年々、意見を言いやすい雰囲気を作られている。	今後もホーム内の課題を明確にし、職員が取り組む方法の検討を行う予定にしている。取り組みの結果を評価しながら、職員個々の目標も確認していく予定にしている。職員個々の気付きを増やすためにも、外部研修の機会も増やせればと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事の際、休日出勤者に対しては超勤書類を提出し給与にプラスしてもらっている。希望公休2回、勤務変更届け出も制限なく変更できるように配慮してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は閲覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い、できるだけ参加するよう呼びかけている。研修は勤務扱いにしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。		

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話ができる時間を確保して、支援に繋げる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		入居までにおける状況を把握した上で、家族様が困っている事や不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		相談時、本人や家族の思い状況を確認し、何が必要かを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の生活歴等伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		利用者様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えていくための協力関係を築けることが多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		夏冬の帰省や外出、地域行事への参加、家族への声かけをはじめ、訪問された方との会話の橋渡し等に努めている。	美容院や馴染みのお店に行かれたり、自宅周辺をお散歩する等の支援が行われている。ふるさと祭りやお散歩中にも、お知り合いの方が声をかけて下さり、併設医院受診の帰りにも近所の方が訪ねて下さっている。医院に入院中の知人のお見舞いに行かれたり、隣接するホームにも馴染みの方がおられ、交流が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		みんなで楽しく過ごす時間を持ち孤立しないように、スタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いができるよう支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は、家族様にお伺いし思いを支援に繋げている。	ホーム独自のアセスメントシートを活用し、カンファレンスで共有している。日々の会話の中から、お好きな事やしたい事等を伺い、「家に行きたい」「畑に行きたい」等の希望を叶えるようにしている。意向の把握が難しい方は、家族に伺いながら、行動の背景にあるものを理解し、ご本人の言葉や表情から真意を確認するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	ご本人、家族、医療関係者、職員からの意見を基にケアマネが計画の原案を作成し、カンファレンスで話し合っている。ご本人の力が発揮できるような目標が設定され、リハビリにも取り組み、洗濯物たたみや水やり等の役割も盛り込まれている。自宅に帰る時の家族の役割や、知人の役割も盛り込んでいく予定にしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉等の記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対応しているが、サービスの多機能化については実践できていない。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からの自治会行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア一枚向こうの医院へ受診、往診ができています。	併設医院がかかりつけ医であり、何かあった時には併設の医院に受診でき、往診(歯科も)も受けられる。家族が受診時も含めて受診結果を共有し、必要に応じて医師からの説明も行われている。日頃の体調変化はホームの看護師から併設医院に報告し、夜間は医院の看護師による巡視もあり、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらい、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設医院なのでDrにより利用者、ご家族に説明を行い、その後の情報も交換できている。他の医療機関時はお見舞いに行き、情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設のため、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち、意向をお聞きしている。看取りの支援も行った。	重度化や終末期に向けた方針として、介護より看護に比重が大きくなってきた時は、職員と主治医、家族で相談を行い、併設医院への入院やホームでの看取り等が決められている。体調変化などは主治医に随時報告し、必要に応じて往診も受けている。「最期はここで」と言う方もおられ、家族の協力も頂きながら、ご本人が安心して過ごせるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。すべての職員が実践力を身に付けているとは言い難い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所だけでなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。	年に2回、併設の医院とホーム合同で訓練を行っている。職員向けの緊急連絡網の連絡訓練も行われ、地域の方も来て下さった。消防団の連絡先を教えて頂いており、運営推進会議でも訓練の予定を報告し、参加してもらえるように依頼している。災害に備え、水や非常食等が準備されている。	消防団の方もホームに来て下さり、ホーム内を確認して下さっているが、運営推進会議で「消防団と一緒に訓練をさせては？」等の意見を頂いた事もあり、今後は消防団長と一緒に訓練のあり方を検討していく予定にしている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり色々な経験や思いがある。それを否定せず受け容れ共に寄り添う声かけや対応を心がけている。	ご利用者が傷つくような言葉かけはしないように心がけている。尿臭にも配慮し、必要時はその方のために浴槽にお湯を張り、入浴して頂いている。無理じいをしていない支援を続けると共に、ご本人に選んで頂く声かけが行われている。個人情報の管理にも注意し、情報漏洩しない取り組みが続けられている。	今後も更に、“自分がトイレを利用するとしたら”と言う視点で日々のケアを振り返ると共に、オムツの保管場所の検討もしていく予定である。“自分が言われたら”と言う視点で、職員個々の言動の振り返りも続けていく予定にしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられるときは見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際、本人に衣類を選んで頂いたり、自己決定しにくい方には、行事等はおしゃれができるよう支援している。また本人の馴染みの美容室でカットができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意思があり、一緒に食事の準備や後片付けをしている。(一部のご利用者に限られる)	3食とも併設病院の厨房で作られており、ご利用者と一緒茶碗拭きやお盆拭き等をして頂いている。「カレーの日」も増やし、玉ねぎの皮むき等を手伝ってもらい、蒸かしても(はっちゃん)やお団子なども一緒に作られている。毎作りも行われ、一緒に美味しく食べるなど、楽しいひと時を過ごされている。	月1回のカレーの日は職員も一緒に食べているが、他の日は一緒に食べる事ができていないとの事。“家庭的な雰囲気作り”のために、ご利用者と調理をしたり、職員が同じテーブルで楽しく食事ができる回数を増やしていきたいと考えている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態、誤嚥がないように配慮し、厨房スタッフとも連携している。毎食の食事摂取量も記録して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じて見守りや介助を行っている。義歯の洗浄も行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は定時であるが、トイレ誘導を行っている。一部の尿便意のある方は、その都度トイレ介助を行いトイレでの排泄を支援している。	入居時におむつ使用の方も、誘導により失禁も減り、パッドの枚数が減った方もおられる。失禁がある方もリハビリパンツではなく、下着(＋パッド)を使用する事で、ご自分で尿意・便意を教えてください、トイレを指差して下さる方も増えている。尿便意のない方も排泄パターンの把握を行い、トイレで排泄できるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナや蒸かし芋を提供したり、飲料水を多めに取って頂く。また野菜ジュースやヨーグルト飲料を取ってもらう等、工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、医療機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。	隣の通所施設の大浴場で入浴しており、病棟の方と一緒に交流する機会になっている。利用できる曜日と時間は決まっているが、希望があればホームのお風呂を利用でき、入浴日以外は陰部洗浄等も行われている。仲の良い方同士で入られたり、柚子湯も楽しまれ、大浴場での入浴剤の使用も検討予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別のカルテに薬状を挟んでおり、確認に努めている。臨時薬に関しては薬状が揃っていないため、あれば望ましい。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯たたみ等お願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、戸外へ出かけられるよう支援している。	隣接する医院への外出も日常で、地域の方との交流も行われている。外来のない日曜日には隣接医院の駐車場で日向ぼっこをしたり、散歩をしながら海を眺めている。小長井町の夏祭りを楽しまれたり、秋桜、桜などのお花見を兼ねたドライブも行われ、如が飾られたお店でお饅頭を買い、美味しく食べられている。自宅周辺をドライブし、馴染みのお店で買い物もされている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、パン屋さんが来られた時や院内にある自販機からジュース等買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事務所から本人自ら電話をされる。一部の利用者への支援が多い状態である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの色を統一し、食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。	玄関入り口には花々が植えられている。下駄箱の上にも貝殻等でレイアウトし、家庭的な雰囲気が作られている。1階では金魚を飼っており、壁には外出した時の写真やお団子作りの写真を貼り、2階に続く廊下の壁面には、小学生からのお手紙や塗り絵を掲示している。職員の切り絵も好評で、額縁を持参して下さる家族もおられる。リビングには空気清浄機を置き、換気も心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	医院跡の事業所の為、個室以外の共同空間に余裕がなく、ハード面で難しい所がある。1階はソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。	ご利用者と家族と相談し、テレビや衣装ケース、携帯電話などを持ち込まれている。家族の写真や、家族が買ってこられた小さな人形も飾られている。痛みのある方もおられ、移動しやすいようにベッドの場所にも配慮し、転倒予防に努めている。持ち物が少ない方も馴染みの物を傍に置き、安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等には手すりを付けたり工夫をしている。照明の工夫。		